

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193300122		
法人名	合同会社 カーム		
事業所名	グループホームわかくさ		
所在地	岐阜県飛騨市古川町上町459-1		
自己評価作成日	令和4年11月10日	評価結果市町村受理日	令和5年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2193300122-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和4年12月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

設立3年目の新しいグループホームです。同じ系列のグループホームが同じ敷地内にあり、馴染みの方との交流があります。リビングから見える風景も山や畑も落ち着いた環境を作っています。裏には施設の畑もあり、入居者の方が野菜の収穫も行っています。施設内はバリアフリーとなっており、居室・トイレにも段差がなく、玄関にもスロープがあり安全面を考慮しています。職員については、研修・講習の参加を積極的に進め介護力を高めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

敷地内には同一法人のグループホームが2件並んでいる。利用者もまた、地域の中でも互いにお隣さんの関係であった人も多い。利用者は今までの経験を活かしながら、野菜を育てて収穫を楽しむ、食材に活用するなど、ホームで暮らす中で一人ひとりが一役を担っている。事業所は、利用者が出来ること、やりたいことを支援し、自立心の継続を支えている。事業所内の廊下、食堂兼居間、居室等、すべて畳敷きになっており、利用者は昔ながらの生活様式で安全に暮らすことができる。管理者は、職員の資格取得を奨励し、積極的に研修受講機会を与え、人材育成にも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が理念を共有できるようにリビングに大きく掲示してある。	三つの理念は、代表と全職員が話し合い、作り上げたものである。利用者にも見やすいように、大きな文字でリビングに掲示している。全職員で理念を認識して実践できるよう、朝の挨拶などで読み上げ、共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は施設の周りを散歩に出かけ地元の方に挨拶を交わしています。同地区の職員も在籍していて馴染みの関係を築いています。	コロナ禍で、地域の行事も自粛されていたが、徐々に回覧版で地域の行事案内も届くようになってきている。地域の清掃活動や行事には、職員が参加している。また、近隣住民から野菜作りの指導やサポートを受けながら、交流することが出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	飛騨市の介護サポート対象施設として登録。現在はコロナ禍のため受け入れは中止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はコロナ感染のために書面会議で実施し、利用活動内容など報告している。またご家族からの要望・ご意見などあれば取り入れサービスの向上に生かしている。	現在は書面開催とし、事前に文書にて報告を行い、関係者から意見や要望を電話で聞いている。利用者と家族から面会の希望があり、感染予防対策をした上で面会を実施し、運営推進会議でも報告をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新型コロナウイルス感染症・インフルエンザなどについて、市町村の担当者から情報を頂いたり、ワクチン接種などの相談などもしている。	運営推進会議の議事録を持参し、コロナ禍での事業所の取り組みを報告し、助言や指導を受けている。行政から、感染防護具等の配布を受けたり、感染症最新情報を受けながら、利用者の安全確保に役立っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は安全のため夜間のみ。玄関の外にベンチが置いてあり、日向ぼっこが出来るようにしてある。職員が見守りし安全に暮らせるよう心がけている。	身体拘束廃止委員会は、定期的に同法人ホーム合同で開催している。また、各ホームの管理者が中心となり、全職員を対象に、身体拘束の弊害や虐待防止についてマニュアルを基に学習会も行っている。昼間は施錠せず、夜間や職員が少ない場合に限り施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナ禍のため、認知症実践者研修・初任者研修等ZOOMにて参加し、虐待防止について学んでいる。		

岐阜県 グループホームわかくさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県内での研修またはオンライン研修などあれば今後参加予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、管理者または計画作成担当者が家族に説明し納得していただけるようにしている。また、申し込み時などでもホームを見ていただき不安なく入居して頂けるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の写真入りでの便りを配布し日頃からの様子を伝えている。個々でもご家族と電話でも連絡をとり状況を話したり、またご意見・要望等も頂いている。	毎月「若草便り」を家族に送付している。日頃の暮らしぶりが分かるよう、作品作りや家事を行う利用者の写真は、家族に大変喜ばれている。家族との面会は感染予防対策をした上で実施し、利用者の状態も報告している。その都度、要望も聞きながら、家族との信頼関係づくりに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時に職員の意見や提案を聞き運営に反映している。またカンファレンス時でも意見出来るようにしている。	管理者も日頃から職員と共に利用者支援を行っており、申し送り時に、意見や提案を聞きながら、より良い支援につなげている。また、若い職員も加わり、働き易い職場環境づくりにも取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正社員・パート関係なく有給休暇を取得できるようにしている。また、希望休なども取れ働きやすい環境作りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護力向上できるように、会社から研修の受講を進めている。また個人でも受けた研修があれば受講できるよう勤務日程の調整などもしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年度よりグループホーム協議会に加入。同情報を頂きサービス向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族と本人と面談し、生活面や身体面など聞き取りを行っている。また入居前にはホームの見学などしてもらい不安なく過ごしてもらえる環境をつくっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から管理者・計画作成担当者が家族・本人と面談し入居時安心していただける環境を作っている。また入居してからも相談できる体制にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族との面談及び担当ケアマネからの情報を統合し、当初必要なサービスの見極めを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭で暮らしているような環境を作るため食器洗いや食器拭きをスタッフとともに良い関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診や美容院などの外出は家族にお願いしている。日頃の面会についてもホームにいつでもきていただけるよう声かけしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、コロナ禍ではあるが、ご家族との関係が途切れないよう面会時、マスクの装着はもちろん時間の短縮や三密にならないよう面会方法を工夫し行っている。また、車で馴染みの場所などお出掛けし外出支援も行っている。	家族や親戚との面会は、感染予防対策と時間制限をした上で、実施している。コロナ禍であっても、面会中止ではなく、家族と話し合いながら継続している。また、出来る限り、利用者が孤独を感じないように、車で馴染みの場所にドライブをしたり、おやつの買い出しに出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事のお茶出しなど入居者の方が率先して行っている。配膳・片付けなども全員が行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族からの問い合わせには柔軟に対応するように努めている。また別の施設への移動や在宅に戻る際は情報を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの希望をできる限り把握。少しでも希望に添えるように話しを傾聴する。また家族にも聞き取りし本人の希望通りの生活ができるように努めている。	地元在住の職員は、飛騨弁で元気良く声かけをしたり、地域行事について話しかけるなどしながら、利用者の思いや意向の把握に努めている。個々の希望も聴き、できる限り実現できるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族より生活歴を聞き情報を把握する。また、本人との会話を通じて安心して生活ができるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録から毎日の様子を引継ぎ、本人の心身状態等をスタッフ間で共有、変化を記録に残し現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	代表が計画作成担当者を兼務しており、入居当初から面識もある。ご家族・ご本人から日常の様子を聞き支援方法などその話し合いをし、介護計画の作成している。	代表がケアマネジャーでもあり、日々、利用者の状態を把握して対応している。介護計画作成時には、家族からの要望を聴き、介護記録をもとに関係者が話し合っ計画を作成している。作成後に家族に説明し、意見や要望などを受け入れ、現状に即した計画を作成している。	現在は、コロナ禍で難しい状況であるが、できる限り家族が参加できる日程を調整し、家族が直接、利用者の様子を確認した上で、計画内容を説明し、理解を得られる計画作りに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の様子・発言等を生活記録に残している。その情報を介護計画に活かし実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	誕生会でお祝いしたり、季節感を味わってもらえるように季節の料理など提供している。また入居者みんなでドライブに出掛けたり、家族の方と外出できるような雰囲気を作っている。		

岐阜県 グループホームわかくさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため現在は行っていないが、地域のボランティアの受け入れもし入居者の方が楽しむことができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は家族同行にてお願いしている。遠距離などで家族できない方には往診などの相談もしている。訪問看護も隔週入り、協力医・看護師・職員と連携している。	契約時にかかりつけ医について説明し、利用者・家族が選択している。看護師が利用者の状態を説明し受診は家族が対応している。診察後は家族から報告を受け情報を共有し、協力医や訪問看護ステーションとも連携しながら、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは本人の体調の変化などの気がつきがあれば、訪問看護に連絡相談などしている。また24時間訪問看護師と連絡とれる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は病院へ入院前情報を提供している 退院時は退院時カンファレンスに参加し情報を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に 重度化した場合における(看取り)指針について同意を得ている。状態に変化あればその都度ご家族や医師などに相談十分に話し合い方針を共有している。	契約時に、重度化や終末期の対応について、利用者・家族に説明し同意を得ている。状態の変化時は早い段階で関係者が十分に話し合い、医師の意見を聞きながら方針を決めている。家族が看取りを希望した場合は、看取り指針を基に、チームで取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の関係機関への連絡方法など見やすい場所に掲示している。玄関にAEDを設置し急変時の対応できるようにしてある。普通救命講習を受けた職員もいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時などの緊急時連絡網を作り連携できる体制をとっている。年に2回以上訓練を実施。防火機械、非常口の確認、消火器の使用方法など確認して安全確保に努めている。	年2回夜間想定を含めた火災訓練を実施し、器具の取り扱い、避難誘導などの訓練を行っている。非常口の確認や消化器の点検などは日常的に行い、備蓄品の賞味期限確認、補給をしている。地域住民と水害・地震対策、支援方法等を話し合いながら、協力を依頼している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりの声掛けには尊厳を損ねないように心掛けをしている。すぐに使用できるようにトイレの前に排泄用品が置いてあるが、プライバシーを考えカーテンで目隠し出来るようにしてある。	常に利用者の人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねないよう、さりげない声かけと対応を心がけている。特に、入浴時や排泄支援時には、羞恥心やプライバシーに配慮するよう努めている。排泄用品の収納棚にはカーテンを付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを優先し、本人の能力に応じた働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調、気分をうかがい、体操や散歩など、無理なく過ごせるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪が伸びた時などは、家族に連絡し、馴染みの美容室など連れていってもらおうようにしている。家族が本人の散髪などもされていることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が食事の準備から食器洗い・食器拭き・片付けまで台所に入り職員と一緒にしている。また、野菜の買い出しなども職員と出掛け楽しんで買い物をしている。	職員と利用者で買い出しに行ったり、近隣からの差し入れや利用者で作った野菜なども食材に活用している。郷土料理作りなどは、利用者の経験を活かし、職員と共に準備に関わりながら同じ食事を食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立をパソコン内に記録しておき、いろんな献立を考えられるようにしている。入浴後は必ず水分補給をし、体調管理できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアにはスタッフが洗面台の前で見守りをし必要な場合は介助している。夕食後には義歯の薬剤洗浄を行っている。		

岐阜県 グループホームわかくさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握。いつも清潔で過ごせるよう汚れ等多くある方についてはパットの確認をし、交換をうながしている。また外出時などもトイレ誘導をしてからお出掛けするようにしている。	昼夜とも、声かけと誘導でトイレでの排泄を支援し、利用者から排泄の報告も受けて、確認をしている。布パンツの利用者もあり、現状を維持できるように、支援している。職員は、利用者の状態に合った適切な排泄用品を選択するよう、日々、話し合っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作成し、排便間隔を確認している。食事ではヨーグルトなど提供して便秘予防の工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を週2回決めていたが、本人の希望などで変更したり日時を決めている。また湯の温度や湯量など本人の希望に応じ行い、場合によっては足浴や洗身などの対応もしている。	入浴は週2回としているが、利用者の希望を受けて、柔軟に対応している。足浴、シャワー、清拭など、希望に沿った対応もしている。職員は、コミュニケーションを図りながら、利用者の状態に合わせて、見守りや介助で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングと居室は自由に行き来出来、食後や昼寝も自由に行っている。就寝時には巡視をしながら部屋の空調を調節するなど良眠できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が服薬管理をしているが職員全員が服薬内容、身体状況を把握できるように情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、食事の準備、後片付け・畑仕事等、一人ひとりに役割を見つけ、充実した生活が送れるよう努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には近くの神社まで散歩に出掛けたり、季節に応じて花見などのドライブにも出掛けている。	コロナ禍にあるため、外出が以前のように取り組めないが、三密を避けながら、近くの神社や近隣を散歩している。また、馴染みの場所にドライブに出かけ、車中から景色を眺めるなど、気分転換を図っている。利用者は、コロナ収束後の外出を楽しみにしている。	

岐阜県 グループホームわかくさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金については、個人でお金を持ちたい方は現在ない。家族より希望あればホームの金庫に保管し出納帳にて管理できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば相手先の都合を考え、電話を使ってもらっている。家族の方に手紙を書いてもらい、それを手元に置いておくことで安心して過ごしてもらえるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓は大きく、外の景色も眺めやすい。また反対の廊下側には季節を感じられる手作業の作品を張り出しどこにいても時期が分かるような空間作りをしている。	共用スペースはすべて畳敷きであり、利用者が転んでもケガが少なく、安全である。廊下も広い。リビングの窓は大きく、ガラス越しに季節の移り変わりを眺めることができる。隣接の同法人事業所の利用者も自由に出入りでき、縁側のベンチでは、感染予防対策をした上で、会話を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの配置を工夫し、居心地よくリビングで過ごせるようにしている。また、疲れた時などは居室で休んでもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は畳敷き・クローゼット、タンスもあり自由に使える。自宅から馴染みの物(写真やテレビなど)を持ってきてもらい安心できる空間作りをしている。	居室も畳敷きであり、ベッドを設置して利用することができる。クローゼットと整理タンスがあり、広く安全に使用できる。思い出の写真、趣味の置物、家族の写真を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の手すりの高さを少し低く設置し、使いやすいようにしている 居室入り口やトイレにはネームプレートを設置し自室とわかりやすいようにしている		